



くわた 恭子通信

<http://kyoko.moo.jp>

zxkyoko@yahoo.co.jp

[無所属]

発行日 H30年8月8日
 発行者 広島市議会議員
 くわた 恭子
 〒731-5153 佐伯区河内南2-30-2
 TEL929-2930 FAX929-2928
 事務所OPEN 9時~17時(月~金)

※会派の了承を得て発行

7月初めに発生した豪雨災害において犠牲、被害にあわれました方々に対し、ご冥福とお見舞い申し上げます。

猛暑の夏、皆様いかがお過ごしですか。市議会議員のくわた恭子です。通信49号をお届けいたします。6月28日に終了した6月定例会の内容や、7月初めに発生した豪雨災害の対応についてなど掲載しています。

7/6 金曜日はものすごい雨でした。佐伯区役所でも14:05には、災害対策本部が立ち上っています。夕方、会議を終え、彩ひ立小学校に行く6世帯の方々が避難しておられました。

7/30 月曜日の朝、河内学区の町内会長さんと話をすると100人を超える方々が避難されたとの事でした。平成11年、6.29豪雨災害の経験が生かされているように感じました。その後、会派の議員の地元である安佐北区の口田や、安佐区の被害が甚大で、当初はボランティアセンターに物資が足りないとの事。数日、軍手やマスク、スコップを運びこみましたが、物資はすぐに充実してきました。

次は、平日の人手が足りないとの事。同様議員と作業に入りました。少ないとは言いますが、その現場には20人程度のボランティアさんが作業をしておられました。若い主婦の方が、「7飯が作らんようになるけん今日はもう帰る。明日また来るね」と帰っていました。地元の方の日常化した支援に感じました。

今回の災害では、私の身内の家にも土砂が大量に入る被害があり、親戚で作業に入りました。土砂は一気には片付かない。生活再建にはさらに時間がかかる。継続した支援が必要と思っています。



7/23 口田の現場、軽トラで作業へ

災害の危機管理は財政でも必要 7/22専決処分費用約107億円

西日本の広範囲を襲った豪雨災害の死者は224人行方不明7人(7/30)、平成にはいって最悪の豪雨災害となりました。犠牲者は広島県が最も多く108人、広島市においても死者23人、行方不明2人となりました。7/17議会運営委員会が開かれ、災害復旧に関する緊急予算を議会を通さず市長が決裁できる専決処分することの報告を受けました。(地方自治法179条)この時点では、概算の予算額もなにもありませんでした。

豪雨災害に伴う補正予算の専決処分額

災害弔慰金支給	1億1000万円	犠牲となった市民の遺族への災害弔慰金 250~500万円
災害見舞金支給 (広島市独自制度)	1億3200万円	住宅 全壊 30万円 1か月以上の治療 10万円
災害援護金貸付 (国の制度)	2億1500万円	貸付限度額350万円 利率3% 利率は県、市が負担
被災家庭ごみ処理	3億1000万円	家具、畳の処理費
道路施設災害復旧	22億400万円	広島三次線、矢野安浦線他128か所
民有地堆積土砂排除	53億6000万円	30万m ³
河川施設災害復旧	8億1000万円	100河川
その他		
一般会計 合計	約96億4051万円	
下水道会計	2億7000万円	
水道会計	7億6700万円	
合計	約106億7751万円	国庫補助約92億円 市の財源約15億円

「災害の予算は否決できない」先輩議員の言葉ですが、100億を超える金額が議会を通さず決裁されます。補正予算額約107億円の財源は、国から災害復旧国庫補助として約92億円、市の財源は約15億円です。国庫補助と言っても48億円は市債の発行です。内容によっては交付税として返ってきますが全額ではありません。市の財源は、少ない基金の取り崩しです。今後、8/28臨時の議会が開かれ、更に100億円以上の補正予算が組まれる予定です。予算措置は4年まへの8・20豪災を参考とし同規模になるとの事。自治体は災害などに備え基金を持っています。その基金が現在激減しています。平成15年度財政非常事態宣言が出された時でも75億円ありましたが、現在は26億円、予定額66億円を大きく下回っています。最近では災害時国の補助金も手厚く、以前ほど基金を必要としないこれが総務省から来た財政課長の答弁でした。日本全国この感覚で運営することに災害と同様の危機感を覚える。

元!3% 災害援護金に利息? 国は被災者から取れるのか...

知事も市長もスタジアムを作ると公言して7年
現在の議論は基町、中央公園での建設だが

→ スタジアム建設と
街づくりは別物

現在 サッカースタジアム建設候補地はみなと公園優位から一転、第3の候補地中央公園自由広場が旧市民球場跡地とみなと公園の折衷案のような形で浮上してきた。基町地区では「基町の明日を考える会」地域の各種団体が構成委員だが、中央公園での建設に反対する要望書を2/14に提出、市長は、まずは基町地区の街づくりを示すことが必要と要望書に答える全住民を対象とした説明会を6/24基町小学校で開催している。住民の参加は240人程度。



7/4 特別委員会 6/24住民説明会の報告が都市活性化対策特別委員会で行われた。市が示した基町地区の将来を見据えた街づくりの方針は、広島市の戦後の復興を支えてきた街から広島市の更なる発展をけん引する街として特別な施策を展開する。

- 基町住宅高層棟のリニューアルを平成34年に完成
17号棟の建替え建設に取り組む
- 高齢化の対応でデイサービスセンターを開設
- 市営住宅の入居条件を緩和、若年世帯の入居を55世帯を目標（平成34年度）に取り組むなど街の活性化策

住民意見は13人、1人が建設に賛成、12人が反対

- 建設には反対。街の活性化とサッカー場は別問題
- 県営跡地にどんどん市営住宅を建てて募集すれば人が増えるそれが活性化だ
- サッカーが賑わいにつながるとは思えない。サッカーの見返りの街づくりの感じがして不快

7/29市営基町中層棟建て替え方針 住民説明会への回答の一部です。基町市営住宅は20棟で構成、18,19,20棟が大きな高層棟、平成34年までの12年間23億円で改装する計画です。17号棟の建替えは計画済みですが、それ以外は改修などの計画そのものはありません。このほど建て替えも検討するとの回答をしています。資金計画などはありません。他の市営住宅との整合性についての視点も必要、注視しなければなりません。

サッカースタジアムについて決まっていることは、スタジアムを建設すること。今年度は新たにスタジアム担当課を設置。職員は6人体制。しかし、スタジアムのイメージも概算の予算もない。まずは基町地区の街づくりが優先でサッカー場建設とは別物であるとの答弁です。候補地については、サッカー場建設と街づくりはセットで別に分けて考えることはできません。サッカーを見る人もそうではない人も皆かき内得するスタジアムで行ければ、税金の投入はできません。持続可能な採算の取れるスタジアムにはほとんど機能が必要を示すべしと判断しています

マツダスタジアムに学ぼう
マツダスタジアムは平成21年4月、総工費145億円で建設されました。広島市の市債発行は約87億円ですが、償還については指定管理者カープ球団から使用料の一部で支払ってもらう仕組み償還期間は30年ですがスタジアム運営費に税金が使われていません。他都市の視察が多いのは建物が新しいだけではなく市民球場をそのままプロ球団が使用することが珍しいからだと思う。

議会改革推進会議、選挙公報発行が決定
6月議会で、次期統一地方選挙より広島市議会も選挙公報を発行する条例を制定、可決しました。議会改革推進会議で議論しやっと条例制定となりました。先に県議会が発行を決めていた事が大きかったかもしれません。新人議員だった平成15年、すでにこの議論はありました。これ程度の事にも時間を要するのが議会成果は少なくとも議会改革の組織がなければ議会の進歩はない。

8/6平和式典 猛暑の夏、今年も8/6を迎えました。粛々と準備された整然とした式典の注目は平和宣言、核の傘に言及したのは久々…これまであえて避けてきた内容です。席の隣には地元の方が献水に参加、6回目との事、平和宣言の後放たれる鳩も佐伯区の巣箱に6分で帰ると話された。

子どもヒロシマ平和学習支援事業/今回で3年目

夕張の中学生2人と引率の先生1人を招いての平和学習支援事業も今回で3回目となりました。小さな事業ですが原爆の継承は子ども達への平和学習が必要と取り組んでいます。もっと多くの議員で取り組みたい。



灯籠流しの言葉を考える子ども達
お好み焼きを美味しいと喜んでくれた。



議会棟で平和学習/被爆証言/詩の朗読